

レギュラーになれなくても、 サッカー部の三年間を人生で生かせ

小嶺 忠敏

サッカー部に入ると、ほとんどの選手はレギュラーポジションを目標にします。しかし、サッカー部で三年間を過ごす真の目的は、「人生の勝利者になること」です。私はよく、生徒に言っています。

「レギュラーになった、ならないというのは、高校時代の三年間のこと。人生九十年のたった三年間です。私たちは、タケノコと一緒に育つようなもの。太陽の光と土の養分を吸収して伸びていき、冬の寒いときは根を長く太くしていく。高校時代にレギュラーになった人はここで花が咲いたわけだが、残りの人生でも花を咲かせなくてはいけない。

たとえレギュラーになれなくても、高校で三年間、サッカー部で練習してきた結果、すばらしい人生を歩むための根を手に入れることができるのです。養分をたくさん蓄えた根を持って磨いていけば、高校を卒業後にならず枝が出て、大輪の花を咲かせることができます。高校の部活動でレギュラーにはならなかったけれど、卒業してから立派な花を咲かせた人はたくさんいます。

たとえば、二〇〇三年の五月に、島原商時代の教え子が、突然、東京から電話をかけてきて、

『先生、どうしてもお会いしたいので、お時間頂けますか』と言う。『来週の月曜日なら、何とかしよう』と答えたら、東京から長崎までポーンとやってきた。それまで、年賀状しか寄せなかった生徒でした。

どんな用事かと思ったら、『先生、七年前にリサイクルショップを始めました。そのときに、一億円売り上げることができたら先生に挨拶しよう決めて、コツコツやってきた。今年、ようやく目標が達成できたので報告に来ました』と言う。これには本当に驚きました。事業は七店舗に拡大して、さらに、新規二店舗を計画中だといいます。その生徒は、高校時代、サッカーはあまりうまくなく、補欠にも入れなかった。でも、こう言ったのです。『高校時代、本当に苦しい練習をして築いてきたものが何だったのか。いま、ようやくわかりました』。

三年間、苦しい思いをして練習してきたことは、確実に心と体を鍛えている。絶対、無駄にはなりません。大切なことは目標に挑戦すること。どんなに弱いチームでも、一試合で三回はチャンスがある。人生にも三回はチャンスがあるから、自分を磨き続けることです。そのときに準備ができていれば、大輪の花が咲きます」

朝礼でも、入学式でも、講演会でも、私はよくこの話をしています。